

創立25周年記念同窓会報

國學院大學北海道短期大学部同窓会「ありす会」





國學院短期大学は、『國學院大學北海道短期大学部』に校名を変更し、さらに進化します



平成21年4月1日。國學院短期大学は、「國學院大學北海道短期大学部（以下・短期大学部）」と校名を変更し、新たな一歩を歩み出しました。

國學院大學（東京・渋谷）の北海道キャンパスとして「滝川で2年・渋谷で2年」という学びのスタイルが更に充実しました。短期大学部から全学部・全学科あわせて171人の編入学枠と、平成21年4月に開設された人間開発学部への推薦編入枠が確保されています。

短期大学部の編入学の歴史は、昭和59年、第1期卒業生11人が学科試験により國學院大學文学部日本文学科に編入学したことから始まります。翌年から國學院大學への推薦編入枠が設けられ、以降、徐々に推薦編入枠の人数や対象学部が拡大されてきました。

平成13年、全学部全学科を対象に推薦枠は74人に拡充、法学や経済、神道文化など國學院大學専門科目を短期大学授業科目として開講しました。大学と短期大学との教育の一貫性と連続性はこうして整っていきました。

「大学全入時代」を目前に、國學院大學との連携や地域の素材を生かした魅力ある大学づくりを目指す國學院大學北海道短期大学部。

昭和57年の開学から27年の時を経て、進化する短大の新たな挑戦が始まります。

ありす会は今年創立25周年を迎えます

國學院大學北海道短期大学部は、昭和57年に「國學院女子短期大学」として開学し、以来7,000名もの卒業生を世に送り出してきました。昭和59年には、初代卒業生を輩出し、同年、國學院女子短期大学同窓会「ありす会」が設立されました。

平成19年には、國學院短期大学の開学25周年記念とあわせ、約10年ぶりとなる同窓会を開催しました。今年は同窓会の25周年記念行事として、短期大学部学園祭「ありす祭」が行われる6月28日に、総会および記念イベントを開催します（P15参照）。

卒業生の皆さん、ぜひ國學院大學北海道短期大学部に足をお運びいただき、母校および同窓会を一緒に盛り上げていきましょう！多数の卒業生の皆さんのご参加をお待ちしています。



▲國學院短期大学開学25周年記念同窓会

短大開学からありす会(同窓会)創立25周年までの軌跡

昭和 57 (1982) 年 …… 学校法人國學院大學創立100周年を迎えたこの年に、建学の精神を継承しながらその近代的な発展を目指して、國學院女子短期大学開学

昭和 59 (1984) 年 …… ありす会(同窓会)設立

昭和 60 (1985) 年 …… ありす会総会開催

昭和 62 (1987) 年 …… 國學院女子短期大学創立5周年記念式典挙行

平成 3 (1991) 年 …… 國學院短期大学に改称。男女共学となる

平成 4 (1992) 年 …… 國學院短期大学創立10周年記念式典挙行

平成 7 (1995) 年 …… 國學院短期大学専攻科(国文専攻・英語専攻)を開設

平成 10 (1998) 年 …… 学科名改称(英語科を英語コミュニケーション学科へ改称)

平成 11 (1999) 年 …… 学科名改称(国文科を国文学科、幼児教育科を幼児教育学科へ改称)

平成 12 (2000) 年 …… 國學院短期大学専攻科福祉専攻開設

平成 13 (2001) 年 …… 学科名改称(英語コミュニケーション学科をコミュニケーション学科へ改称)アイヌのウラッチセ(笹ぶきの家)を復元

平成 13 (2001) 年 …… 「金田一記念文庫」を開設

平成 18 (2006) 年 …… 國學院短期大学幼児・児童教育学科に小学校教諭養成課程(児童教育コース)開設

平成 19 (2007) 年 …… 國學院短期大学開学25周年記念式典挙行。パークゴルフ場開場式挙行。國學院短期大学開学25周年記念同窓会開催

平成 21 (2009) 年
4月1日 …… 國學院大學北海道短期大学部に改称



國學院大學北海道短期大学部学長
同 ありす会 名誉会長

蛭 原 弘

ありす会創立 25 周年によせて

ありす会創立 25 周年記念お目出とうございます。本会は昭和 59 年に第 1 期卒業生により設立され、会員相互の親睦と融和をはかり、母校の発展に寄与すべく活動することになりました。平成 11 年頃までは、ありす会総会も定例的に開催されておりましたが、大学冬の時代とともに本学の経営が厳しくなり、総会の開催が絶えがちになったことは会員各位の知るところであります。

然し、平成 19 年 10 月 13 日の本学の開学 25 周年記念を機し、新旧会長のもと学校、ありす会が協力し合い、会則にのっとり今後積極的に活動することを誓ったところです。

米国の大学などではホームカミングと称し、卒業生が母校に多大の援助協力をして、母校を支えていると聞きます。このようになる為には、前提として学校側の卒業生への正確な情報伝達があり、卒業生側からも各自の動向提供が伴い相互理解と共感のもとに出来ることと思います。

ありす会が創立 25 周年記念を機に改めて母校と卒業生の絆を強固な結びつきに再構築して、会則の目的に沿っていかねばならないと思います。その為の記念会報誌の発刊と思います。

学校法人國學院大學の傘下校で卒業生の会に國學院大學の母体である皇典校研究所の初代総裁有栖川熾仁親王の名を冠した由緒ある会はありません。学校、卒業生、関係者共々この名に恥じぬよう力を携えて参ろうではありませんか。

尚、会報誌発刊時には、校名が國學院大學北海道短期大学部に改称されていると思います。校旗新調に多大のご支援をいただきお礼申し上げます。

最後にありす会の弥栄えと会員関係者のご健勝を祈念し、ありす会創立 25 周年記念誌発刊の御挨拶と致します。



第 4 代ありす会会長

山 本 健 裕

絆—再生へ—

ありす会創立 25 周年の節目にあたり、四半世紀の長きにわたり本会の運営にご尽力いただいた多くの皆さまに心より御礼申し上げます。

一昨年、開学 25 周年記念事業の一環として 8 年ぶりに開催されました同窓会を契機として、ありす会も新しい一歩を踏み出しました。昨年は、およそ 10 年振りとなる会報誌の発刊、総会の開催など、役員一同微力ながら、ありす会の再生に向けた取組を進めているところであります。

このたび、本会の記念すべき年に、母校の名称が「國學院大學北海道短期大学部」と改称されますことも、また、偶然ではないような思いがしております。

いまや、入学生のほとんどが國學院大學への編入を目指し、また実際に進学される状況の中で、「短期大学（部）同窓会」としての本会の意義と、今後の運営の在り方を再考する時期にあると痛切に感じております。

そこで、世代間のつながりを拡大していくことを目的とし、在学中から同窓会の活動を理解していただくため、在学生と連携した事業を展開していくことを計画いたしました。本年は、『同窓会創立 25 周年記念事業』として、別にご案内しております大規模なイベントを在学生、及び短期大学部と連携し招致いたします。積極的に在学生と関わっていくことで、卒業後の同窓会活動への入口を拡大してまいりたいと考えております。

また、同窓生の皆さまにもこのイベントのご観覧に母校を訪問していただき、同日別途開催いたします同窓会総会にもご出席いただきたくご案内申し上げます。

末筆ではございますが、本記念会報誌の発刊にあたり、多くの温かいメッセージをお寄せいただきました教職員の皆さま、そして同窓生の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げますとともに、今後もありす会の活動に、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、本会創立 25 周年に際してのご挨拶に代えさせていただきます。

ありす会

創立25周年に寄せて
一言メッセージ



これまでお世話になった
教職員からのメッセージ

〈敬称略／就任年度（順不同）・退任年度順／
役職については、退職時および現職は平成21年3月1日現在〉

林陸朗（平成03年度～平成07年度／元学長）

ありす会25周年、おめでとうございます。短大の創立25周年が一昨年のことでしたから、なるほど今年はありす会の25周年なのだ、と思い出しました。私の在任中には、ありす会の会員は女性ばかりでしたが、いまでは当然男性の会員もいるわけですね。ますますのご発展を祈ります。

飯田学而（昭和57年度～昭和63年度／英語科・教授）

卒業おめでとうございます。かつて同じキャンパスで教壇に立っていた一人として、お祝いを申し上げます。諸君は今一つの節目を越え、次の節目に向かって進もうとされているわけですが、その先に何があるかはまだ分かっていないと思います。人生の目標を見つけるにはいろいろな可能性があるはずです。失敗を恐れずトライして下さい。それが若さに与えられた特権ですから。ただ健康にだけは十分に留意して下さい。

菅原馬吉（昭和57年度～平成04年度／幼児教育科・教授）

國學院短期大学に学ばれた皆さんとのご縁を得ましたことをしみじみ有難く感謝しております。「出会いが人生を変える」と言われます。皆さんとの出会いによって私の人生の後半を充実させることができました。「出会い」を生かすのです。一日一日を大切に、感謝で生きるのです。

皆さんのお幸せを心からお祈り申し上げます。

北條俊朗（昭和57年度～平成04年度／事務局）

25周年、おめでとう御座います。老人の薄い記憶の中にある、ありす会創設時についてのことです。1期生の中に同窓会を作りたいという希望が、千代さんなどを中心に出てきて、結構なことと話が進み、同窓会の名称をどうするかということになりました。学生側から、國學院の初代総裁有栖川宮のお名前を頂き「有栖会」という案が出ましたが、有栖川宮のお名前を頂くのはいささか畏れ多くいかかとの私共の考えから、法人本部へお伺いし、ひらがなで「ありす会」であれば差し支えないとのことのお許しを得て、同窓会の名称が決まったと記憶しています。今思うと、ひらがなのほうが、柔らかく、会にふさわしいと思います。

私事ですが法人での職を辞して久しく、今は、回顧の日々を過ごしておりますが、短大での思い出が一入熱く、一緒に頑張った羽球部員や、小生在職中何かと関わりがあり今は道内、青森、岩手、茨城等に在住の卒業生から未だに年賀状を貰うと、短大での勤務させて戴いた有難さをつくづく感じるのです。

川守田正康（昭和57年度～平成08年度／幼児教育科・教授）

幼児教育科では、1年生から実習があります。不安と期待の入り混じった表情も2年次の長い実習を終える頃には、自信に満ちた態度に変化します。私たちの喜びでした。後輩の実習巡回指導の機会でもあれば、先輩保育者としての的確な指導に当たっている皆さんの活躍に接することができました。いずれの場にあっても、これからもその春秋に富む人生をさらに彩りゆたかに加えつけて頂きたいと願っています。石狩の流れのように悠々と、夕茜の空に映える山並みのように美しく。

金山勝也（昭和57年度～平成14年度／コミュニケーション学科・教授）

白雪が降りしきる。老後の生活は教える子である皆さんの夢を見るのが楽しく活力になる。足腰を伸ばし日課の散歩にでる。大自然は生と死の摂理を見せる。「今、この不条理な人類世界はいずこへ？」と自問し、たたずむ。私が英米文学で求めたのは、人間性の本質である。私たちの中にある他人への愛、共に生きる自然の本能である。皆さんと共に私も生きています。声をかけ合い、強い人間の絆で前へ進んで行きましょう。

吉野幸男（昭和57年度～平成16年度／幼児教育学科・教授）

ママさんコーラスを指導して20年。当初若かったお母さん達も今はお婆ちゃんの域に。歌うことが好きな者の集まりでみんな仲良し。私は楽しく歌える環境づくりと心身の健康に結びつく指導をしている。見やすい楽譜作り、腹式呼吸による発声と発音練習、身体表現を伴ったリズム打ちなど。人間齢をとってくると身体諸器官の機能低下が生じてくる。その対応である。また、月に一回、名曲鑑賞を実施。好評である。卒業生の皆さんお元気で活躍下さい。

菅野 亜来男（昭和57年度～現職／事務局長）

昭和57年短期大学が開学してから平成7年（第13期生）まで学生課に、それ以前は渋谷の学生課に11年いました。25年間も大学生、女子短大生、共学生のみなさんと毎日顔を合わせてきましたから、一昨年の「開学25周年ありす会記念大会」は、その後の10数年間を瞬く間に埋める本当に楽しみにしていた大会でした。ああそれなのに！25周年の実行委員長を仰せつかった私は札幌に行けませんでした。今でも誠に残念な思いで一杯です。口幅ったい言い方で恐縮ですが、1期生から関わった私には産婆の気分もちょっぴりあるんです。

黒阪陽一（昭和57年度～現職／幼児・児童教育学科・学科長教授）

近況報告。今年めでたく還暦を迎えることができました。`光陰矢の如し、という言葉を実感できる年齢に達したということでしょう。単純に計算しますと、この学科だけでも、2500名の人々との出会いと別れを重ねたのがこの25年であったのでしょうか。仕事に疲れぼんやりと窓外に広がる空知の山並を眺める時、ごくまれではありますが、巣立った方々のその後の人生に思いを馳せるこの頃の私であります。皆さんのご健康とご発展を心から祈っております。

牧野多聞（昭和57年度～現職／総合教養学科・教授）

創立25周年おめでとうございます。

創立に奔走された1期生から今年卒業する26期生まで、親子ほど年齢差のある皆様と、関わった事を幸せに思います。また、卒業しても母校を忘れず訪ねてくださる卒業生がおられることを、うれしく思います。

皆さまの思いのこもったありす会が益々の発展をされる事を祈願しております。

平野泰樹（昭和57年度～現職／総合教養学科・教授）

ここ滝川の地に開学して27年が経とうとしています。開学当初の学生さんは、実に生き生きと個性を発揮し学園生活をすごしていました。そのことをつい昨日のように思い出します。本学も学科の改組や専攻科の創立、小学校課程コースの新設、國學院大學への編入路線の拡大等々、未来に向けての歩みを絶え間なく続けてきました。卒業した皆さんにも様々な出来事があったことでしょう。進学、就職、恋愛、結婚、新しい家族、老親の介護、自分や家族の疾病、離別等々。喜びだけでなく、悩み、悲しみ、苦しみ、これからもまた人生の一部です。健康に留意して、一日一日を前向きに頑張ってください。

橋本征子（昭和57年度～現職／国文学科・学科長教授）

大学も開校以来、28年になります。開校当時本当に根づくのか心配された紅いマロニエも大きくなり初夏の頃には美しい花をさかせてくれます。皆さんも学窓を巣立、それぞれの人生を歩んでいることでしょう。人生はそう自分の思うようにならないということを経験した人もいるでしょう。でも、毎年、律儀に花を咲かせてくれるマロニエを見ていると自然の摂理の奥深さを感じます。どうぞ、皆さん、マロニエに会いに学び舎に来て下さい。ここには皆さんのあの青春が確かな形で残っています。

後呂壽道（昭和57年度～現職／事務局次長）

國學院短期大学ありす会が創設25周年という四半世紀を迎えられましたことに心からお祝いを申し上げます。思い起こすと本学の校名は、開学時は女子教育として出発、平成3年4月男女共学、さらに平成21年4月國學院大學北海道短期大学部に3度の変更を経て27年の伝統と歴史を刻んでまいりました。同窓会と短大が共に連携を深め母校に対するご助言、ご支援をお願いいたします。今後とも同窓会のご発展と卒業生のご活躍、ご健勝を心から祈念申し上げます。

平野富康（昭和57年度～現職／事務局次長）

1年、2年、3年と年を経る程気になるのが母校。彼は元気なんだろうか？彼女はどのようにしているのだろうか？そんなことに気がついたらいつでも訪ねて下さい。

皆さんの母校は、ここ滝川の地で元一杯です。春には桜やリンゴの花が、初夏にはピンクのマロニエの花が、秋には赤いオンコ（イチイ）の実が、冬には真白い雪が皆さんをお待ちしています。是非母校をお訪ね下さい。そして`元気、というお土産をお持ち帰り下さい。

養嶋久美子（昭和57年度～現職／学生支援センター）

ありす会発足25周年おめでとうございます。國學院短期大学に勤務して四半世紀が過ぎました。サークルの顧問として、学生課の職員として、就職担当として様々な立場で皆さんと関わってきました。年々感じる学生との年齢差ですが、学生生活を`宝物、として日々頑張っている卒業生に再会することが何よりも嬉しいことです。卒業生の皆さんのご健勝とありす会の益々の発展を心より祈念いたします。また、いつかお会いしましょう。

吉田松葉（昭和59年度～平成03年度／学生課）

昭和57年4月一期生として入学し、國學院との出逢いも四半世紀以上となりました。職員となり、現在は職員の家族、そして教養講座受講生。私の履歴の中には、國學院という文字でいっぱいです。滝川で過ごされた日々は、皆さんにとってどのような時間でしたか。久し振りに短大を訊ねてみてはいかがでしょう。25年間の日々をかさねた縁あふれるキャンパスは、木々までもがいとおしく感じられるはずです。

栗田義彦（昭和60年度～昭和63年度／一般教養・准教授）

私が國學院女子短期大学（当時）を辞したのは、約20年程前の平成元年（昭和64年）の春でした。当時の学生さんたちは、今や四十路を越えています。そして私も遠に還暦を通過しました。今更年光陰如矢を実感しております。とは申せ、私が思い出す彼女らの姿形は昔のまま。うら若き乙女たちです。縁あって滝川の地で時間を共に過ごしました。大切な人生の1コマです。そして、今、皆々「幸多かれ！」と祈っております。

安田義明（昭和61年度～現職／国文学科・教授）

大方の皆さんにはご無沙汰しておりますが、お元気で暮らしてでしょうか。若かった（年齢よりも？）安田の髪も白くなり、ついでに白い不精髭もたくわえました。すれちがっても多分気づかれないかもしれませんが。勉誠社の金子みすゞ評論シリーズの分担執筆も7冊目になりました。今は『円地文子事典』（22年11月鼎書房より刊行予定）の編集作業をしています。図書館・書店で見かけたらお手にとってください。

吉田裕一（昭和62年度～現職／事務管理センター課長）

卒業生の皆様、ありす会発足25周年おめでとうございます。

現役員さんに引き継がれた同窓会活動も更にパワーアップし、活性化されていることは大変喜ばしいことです。

本学も4月から新校名に変わります。卒業生が築いた歩みを基に、時代の変化に適合した新たな一歩を加えて行きたいと思います。

卒業生から頂く応援の声に、素直に耳を傾け、皆が誇れる大学にしたいと思います。

寺山佳代子（昭和63年度～現職／総合教養学科・教授）

英語科、英語コミュニケーション学科、コミュニケーション学科、総合教養学科の卒業生の皆様、お久しぶりです。お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。私の所属学科の名称は時代とともに次々と変わり、現在は総合教養学科にあります。火、木、金曜日は出校しております。着任以来、同じ研究室にいますので、お立ち寄り下さい。懐かしい皆様と再会できるのを楽しみにしております。

内田英二（平成01年度～平成16年度／コミュニケーション学科・教授）

ありす会発足25周年おめでとうございます。会員の皆さん、お元気ですか？私はもはや「おじいさん」の域に達しましたが、あの頃の勢いのまま頑張っています。私のなかの皆さんは20歳のままですが、それぞれ立派な大人になっているのですね。社会人としても家庭人としてもますます大変な時期を迎えると思いますがどうぞ頑張ってください。皆さんといつの日か再び笑って会えることを楽しみにしています。

塚越義幸（平成01年度～平成07年度／国文科・准教授）

滝川を離れて、12年の歳月が流れました。現在は姉妹校の國學院大學栃木短期大学に勤務しておりますが、縁があって毎年のように短大を訪れ、平成18・19年とオープンカレッジを担当させていただきました。暖かくて開放的な校風は、以前とまったく変わっていません。そんな素晴らしい校風を永久に継続すべく、卒業生の皆さんが短大をしっかり支え、ありす会をさらに発展させていきたいと存じます。

配島成光（平成02年度～平成11年度／国文学科・教授）

—25周年に寄せて—

國學院短期大学の卒業生が結成した「ありす会」が発足後、25周年を迎えたことは誠にめでたく、心よりお祝い申し上げます。昔から何事も最初が肝心ということば通り先輩が幾多の苦難を経て築き上げた歴史の重みは貴重な文化である。これをベースに諸君の努力の結果を積み重ねて行けば「ありす会」をさらに立派に構築し、後輩に残すことができると存じます。それを期待しております。

播摩光壽（平成02年度～現職／国文学科・教授）

諸君の母校は不変です。校名が変わっても「國學院」の冠は一貫しています。人それぞれ短大に対する思いに違いはあることでしょう。しかし、時は違っても、青春時代の一時を滝川の短大という空間で過ごし、「國學院・短大魂」で結びついている点では、皆さん同じです。私たちの唯一の集いの場の「ありす会」の集まりに、気が進まなくても一度だけでも参加してみたいかがでしょうか。単に過去の思い出に浸るためではなく、新しい人との出会い・新しい自分を発見するために。私たち一生「ありす会」の会員です。そこにはその時々、お互いに啓発し合える場があるに違いありません。私もそれが楽しみです。

太田信二（平成03年度～現職／総合教養学科・学科長教授）

卒業生の皆さんへ

「どうして？」、「なぜ？」と問う《子供の目》、《子供の心》を持っていますか？ついつい、「そういうもんなのよ」といって済ませてしまいたくなるかもしれませんが、短大を卒業した後でのさまざまな経験から、今改めて「なぜ？」と問い直すとかつては気づかなかった、新たな答えを見つけることができるかもしれませんよ。

樋口隆士（平成03年度～平成11年度／英語コミュニケーション学科・准教授）

平成3年度から9年間教壇に立ちました。学科最大のイベント、国際コミュニケーション・デー（ICD）や学科研究発表会の運営と参加、学科紀要「たしかわぶれていん」の寄稿、編集では、各自が役割を果たし且つ楽しみました。海外研修では見聞を広げ生きた語学を研修、失敗もまた経験でした。滝川での2年、ゼミや行事等で培った頑張りや助け合いは実社会でも活かされていることでしょう。皆さんお元気で。

浅野春二（平成08年度～平成13年度／国文学科・准教授）

卒業生の皆さんお元気ですか。平成8年から平成13年まで国文科（国文学科）の漢文関係の科目と中国語を担当しました浅野です。私は國學院短期大学での六年間に、皆さんとともに多くのことを学びました。それが今の自分の基礎になっていると思っています。皆さんも忙しい日々を送っていると思いますが、筋の通った自分らしい生き方をして下さい。またどこかでお目にかかりましょう。

山下松蔵（平成09年度～平成15年度／国文学科・教授）

教職課程や児童教育コースの学生の皆さんとかかわった9年を、懐かしく想起しています。

私は、教職科目を学ぶ学生の「ひたむき」「まともさ」がとても好きでした。しかし、自分が行き詰ったとき、その壁を越える知識や技術を手に入れる「学ぶ習慣」が大事だ、とも感じていました。

教育について、真剣に考え合った、あの純粋な体験を役立てて欲しい、と願っています。

吉田耕一郎（平成09年度～平成15年度／幼児教育学科・准教授）

15期生～22期生が在学中のたった7年間という短い期間、素敵な皆さんと時間を共有させていただいたことを宝物にしています。講義だけでなく、研究室、サークル等でたくさん付き合わせてもらい、皆さんの可能性に大いに期待していました。きっと今は、それぞれの場で活躍していることと思います。母校・恩師・旧友を大切な思い出に、益々頑張ってください。応援しています。

奥本繁（平成11年度～平成17年度／コミュニケーション学科・教授）

卒業生の皆様、厳しい時代の中であって様々な職業に就かれ自分の能力・適性を発揮されていると思います。短大では、あくまでもアカデミズムを標榜していましたので、職場では戸惑いながらも努力を重ねてその任を果たしていることと存じます。福沢諭吉は「人望のある人物でなければ社会に役立たない」と言っています。人望は、知恵と徳行によって得られるものです。引っ込み思案から脱却して活発に活動して下さい。有意義な人生を送るよう祈念します。



小早川恒徳（平成 11 年度～平成 20 年度／入試主幹）

「ありす会」発足 25 周年誠にありがとうございます。

わが「國學院」は天下に誇れる大学と心底から自負しているひとりで。渋谷で巣立ち 50 年余り、今もその思いに変わりはありません。例え僅か 2 年間の短大生活と雖も、その精神には微塵のずれもないはず。私は単に短大の裏方のお手伝いで、学生諸君とは殆ど交流もありませんでしたが、貴方々は紛れもなく「國學院の後輩」と理解しております。

柏崎悟（平成 11 年度～平成 20 年度／入試主幹）

月並みな言葉ですが皆さん、まずはおめでとうございます。國學院大学の校歌に「外つ国々の長きを採りて我が短きを補ふ」とありますように皆さんの先輩、上司の長所を取り入れ、自分の短所を補う心を持って欲しいものです。そうした心豊かな謙虚な生き方の出来る人は間違いなく品格の備った人となれるでしょう。

皆さんの洋々たる人生に花開かんことを願ってはなむけの言葉と致します。

平井正則（平成 11 年度～現職／入学アドバイザー）

ありす会発足 25 周年「ありす会報記念号」発行にあたりお慶び申し上げます。振り返って國學院大学創立百周年記念一大事業として本学が設立された喜びは、院友の高校教員にとって大きかった。教職時代には生徒の進路相談に真摯に全力で応じ、またその中には本学への夢を託して進学した幾多の優れた卒業生との出会いがあり、「院友」の絆の強さを覚えている。院友の名の下に、道内各支部の集いでお会いし歓談したいと願う。

鍋沢信子（平成 14 年度～現職／専攻科福祉専攻・准教授）

ご卒業おめでとうございます。

専攻科福祉専攻生は、カリキュラムの都合上「ありす祭」で思う存分楽しめない事が残念ですが、昨年のありす祭は模擬店や踊りなどがとても印象に残っています。楽しかったです。学校祭の準備に携わった学生たちに感謝しながら、今年はどのような学校祭になるのかと期待しております。

山寺三知（平成 14 年度～現職／国文学科・准教授）

熱烈慶祝「有栖会、成立 25 周年」

就任以来、はや 8 年を迎えましたが、毎年、思うのは、本学の学生たち皆、素直でのびのびしているということです。それは、学生たちの性質そのものなのでしょうが、北海道という土地がその良さを発揮させているのかもしれません。卒業して社会に出てもその良さを持ち続け、幸せな人生を歩んでもらいたいと心から願っています。同窓生のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

渡辺俊一（平成 15 年度～現職／産学連携教育研究所長）

英国の諺に、「まさかの時の友は真の友。困った時にお互い助け合うことが真の友情である」と説いている。一方、昔の人は「晴天の友となるなかれ」と言って、運氣に恵まれて繁栄している人に好んで交友を持つことは、利害得失を期待する一過性の友情でしかない戒めている。真の友情を得る為には利害得失を抜きにした学生時代の友がお互いの人生を映し出す鏡となるだろう。電脳空間（携帯、パソコン）時代でも自己中心でなく他人を思いやる友情を育てよう。

村井弘（平成 15 年度～現職／学長室付アドバイザー）

皆さんの母校という認識を持って仕事に携われるかどうかは、そのスタンスの保ち方で変わってくるように思います。いくつかの企画を 6 年間で提案実行してきましたが、果たして OBG の皆さんのお気持ちに鑑みた時、良かったのかどうか疑問に思う事もあります。27 年の『伝統』はまさしく『電燈』そのもので、ほのぼのとした暖かさのあるキャンパス（灯り）があるからこそそこに集まれる、そんな短期大学部がずっと滝川で続いて欲しいと望んでいます。

工藤裕子（平成 15 年度～現職／入学アドバイザー）

國學院短期大学の入学アドバイザーとして早 5 年を迎えます。実際の活動は首都圏で、北海道へは 2 回しか足を運んでいませんが、短大の印象、滝川の街並みなど忘れられません。又、短大生の書いたレポートを読んだりしているうち、何だか顔も見えない学生さんが身近にいて、いつの間にか我が子がふえたような気にすらなっています。どの道に進まれようと、ありす会の卒業生の皆様も私も同じ院友で結ばれていることを覚えていて下さいね。

薮崎志緒子（平成 15 年度～現職／入学アドバイザー）

北海道という雄大な土地で、仲間達と過ごした 2 年間は、長い人生の中で、1 番思い出深い貴重な 2 年間だったことでしょう。これからも「ありす会」と共に、仲間としての結びつきを大切にしつつ、心の拠り所となっていくこと願っております。私は、入学アドバイザーとして 5 年間勤めて参りましたが、皆様がそれぞれの進路で御活躍していられることを、うれしく思いますし、今後も応援して参りたいと存じます。

半谷喜久恵（平成 15 年度～現職／入学アドバイザー）

ありす会発足二十五周年心からお祝い申し上げます。この間、女子短大から共学により多くの卒業生を送り出し様々な分野でご活躍のことと思います。

ますますありす会の結束が高まり、これからも発展されることをお祈り申し上げます。私も微力ながら滝川にある短大で学ぶ魅力を高校の先生方に伝えていきたいと思っております。

月岡道晴（平成 16 年度～現職／国文学科・准教授）

私が國學院短期大学に着任してから、早くも 6 年の月日が経とうとしています。初めは 20 歳代のひょう子だった私も、学生・卒業生の皆さんとともに成長して今年は准教授になりました。皆さんを育てながら、自分自身も育てられた歳月でした。感謝の念に堪えません。最近北海道新聞社主催の道新ぶんぶんクラブ教養講座で、「萬葉集の世界」と題する講演を道内各地でしています。皆さんもぜひ学生の気分に戻ってご視聴下さい。

松村澄絵（平成16年度～現職／幼児・児童教育学科・専任講師）

会員の皆様、ありす会25周年おめでとうございます。私は、3月に5回目の卒業生を出しました。卒業生には、いつも良き社会人でありますようにと願っています。

「遊びに来たよ」[相談があるの]と電話や研究室を訪ねてくれる卒業生の声を聞くこと、顔を見ること、語り合うことは、同じ社会人として励みになります。どうぞ、気軽にお立ち寄りください。

笹木義久（平成18年度～現職／幼児・児童教育学科・教授）

ありす会発足25周年記念会報誌の発刊を心よりお祝い申し上げます。昨年、札幌で開催されました総会に出席させていただき、皆様が学生時代に戻ったような雰囲気の中で談笑されておられた姿に私も微笑ましい気持ちにさせられたことを思い出します。

児童教育コースも本年度初めて会員を送り出しました。これからも多くの会員を送り込み、ありす会が益々発展されますよう応援をしてまいります。

西出稔（平成18年度～現職／幼児・児童教育学科・准教授）

児童教育コース第1期生の皆さん、学業や実社会で元気に頑張っているでしょうか。卒業後東京から滝川まで、自転車旅行をしてきた男子。その有り余る青春のエネルギーには本当に驚きましたが、在学中の皆さんの様子からうなずける面もあります。そんな皆さんの将来は、国語学者、或いは教師さらには、経済界や会社で能力を発揮するのでしょうか。皆さんにどのような未来が待っているのか期待とともに楽しみにしているところです。夢に向かって進もう。

栗飯原匡伸（平成18年度～現職／幼児・児童教育学科・専任講師）

卒業おめでとうございます。卒業は、区切りとよく言われますが、僕にとって卒業とは、次へのスタートだと思うのです。今、君達は新しい未来への扉を開けたわけです。未来へ進むことは、ある人にとっては不安であり、ある人にとっては恐いことであるかもしれません。しかし、僕たちはどんなにがんばっても過去に向かって進むことはできないし、立ち止まっても必ず平等に未来が来てしまいます。だから、どうか振り返らずに、ただ前を見て進んでください。

白府忍（平成18年度～現職／専攻科福祉専攻・専任講師）

ありす会発足25周年記念おめでとうございます。

専攻科福祉専攻も21年度で10年を迎える事ができました。國學院短期大学でのキャンパスライフを思い出し、その時の思い出を是非母校に足を運び語り合っ、先輩の頑張っている姿も後輩へ見せて下さい。それが何よりもの後輩や母校を育てる力になります。又2年間の滝川生活で出逢った、家主の方やアルバイト先の方、ボランティアでのお世話になった方にも是非元気な顔を見せて下さい。お待ちしております。

野口祐加（平成18年度～現職／学生支援センター）

ありす会発足25周年おめでとうございます。私は國學院短期大学を卒業し、学生であった立場から職員としての立場になり3年が経ちました。短大に入学して、たくさんの友人と出合っ、予想し得なかった夢を掴んで。それは今の私を形成するためには欠くことのできない要素であったと思っています。皆さんも、短大で得た大切な時間を糧に、未来の自分を形成するために向上心を持って頑張ってください。心から応援しています。

森和子（平成18年度～現職／入学アドバイザー）

ありす会発足25周年おめでとうございます。会員の皆様におかれましてはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。短大は時代の変化に伴い共学化、学科名改称、学校名変更などの改革に取り組んでいます。私たちアドバイザーもその一助になればと活動しております。ありす会が皆様に支えられ、より一層発展されることをご祈念申し上げます。

佐藤たかえ（平成20年度～平成20年度／入学アドバイザー）

平成20年度4月より、母校である國學院短期大学でアドバイザーの仕事を始めました。道内の高校を回って短大のPRをしたり、卒業生の就職先の幼稚園や保育園を回る仕事…卒業してから20年の時がたっても、私が在学していた時代に、お世話になった先生が元気に教壇に立っている事が何より、うれしかったです。短大の仕事を通して、短大への愛着が増す毎日…新しい人との出会いがある仕事。少しでも多くの人に國學院の良さを伝えていくつもりです。

瀧本勝（平成20年度～現職／国文学科・准教授）

平成20年度の4月に着任しました。担当は教職課程関係です。教育実習や介護体験の巡回指導で道内各地を回ると、いろいろな方から本学との関係について声をかけていただきました。そのたびに、激励を受けたようで心強く思うとともに、本学卒業生が各地でしっかりと根をおろし活躍していることを感じました。今後ますます同窓のつながりを深めていきたいものです。

舛井雄一（平成20年度～現職／総合教養学科・助教）

ありす会25周年、誠におめでとうございます。私も昨年度より本学に奉職し、初めての学生を輩出致しました。この春卒業した学生たちには、これから新たなステージで精いっぱい頑張っ、大きく羽ばたいてもらいたいと思います。私の未熟さ故に、どれだけのことが伝えられたのか心残りもございますが、「あの先生、変わっていて面白かったな」などとたまには思い出してもらえると幸いです。これからも誰よりも頑張ってください。皆さんの心の故郷「滝川」からこっそりと応援しています。

澤井珠代（平成20年度～現職／入学アドバイザー）

國學院短期大学「ありす会」25周年おめでとうございます。私自身、本校を卒業し15年が経ちました。短大で過ごした2年間は、多くの事を学び、友と楽しく過ごした貴重な時間だったと思います。

縁があり、昨年からは入試・就職支援・子育てサロンのスタッフとして、短大にお世話になっております。未熟ですが卒業生の1人として、本校の発展と在学生達への力になれるよう励んでいるところです。

25周年と、まだまだ若い短大です。卒業生の皆様に、ご協力を頂き、本校を支えて下さるよう宜しくお願い致します。

井上正恵（平成20年度～現職／入学アドバイザー）

卒業後、皆様はいかがお過ごしでしょうか。様々な人生を送られていることと思います。

私は自分の人生を深めるために社会人奨学生として同短大の2回目入学、卒業を経て、現在縁あり短大の仕事をさせて頂いております。皆様は卒業後短大時代を思い出すことがありますか。皆様が國學院短期大学の事を思い懐かしいと考えてもらえることで、これから短大は元気に生き残っていけると思います。ぜひ、この春は、自分自身の短大時代を思い出し、國學院短期大学の大きな支えになって下さい。お願い致します。

卒業生の皆さんからの メッセージ

（敬称略／卒業年度・学科順）

英語科 昭和59年度卒 渋川真理子

新築の校舎の匂い、ピカピカの床、初めての入学式、そこから始まった学生生活はとてとても楽しいものでした。あれから25年。いろいろな変化がありましたが、今の学生さん達はどうか？ 楽しいですか？ 楽しんでいますか？

国文科 昭和59年度卒 PN イッキセイ

後輩が入ってくるとビビります。まじっす。さけます……。

英語科 昭和59年度卒 PNAlice

夏30℃、冬マイナス30℃。酷暑・厳寒、初めての土地、下宿での洗礼。ジンギスカンに歓呼し、キュウリの味噌汁にうなる。

教授とオチオチ会話ができない。だって敬語が出てこない。友人と意見を闘わせた。「ゼロについての考察」。結論は出なかった。

勉学も一生懸命した。生まれて初めて徹夜もした。「一夜漬け」と評されれば否めない。

光栄にも、幸運にも〈ありす祭〉の名付け親の一人に加わる事ができた。恋も頑張った。中距離恋愛のおかげで、往復の電車の中でも勉強した。「寸暇を惜しむ」の意味を知る。

濃縮された10代最後の2年間。記憶にきざまれた、わたしの宝物。

国文科 昭和61年度卒 渡辺直子

短大に入学し、私は多くの友人たちと出会った。

想像以上に辛かった片道2時間のバス通学は、一緒に通う仲間たちのお陰で楽しい時間になった。

学園番が近いのが縁で自然と親しくなった友人たちとは、卒業後も交流を深め、出会いから早20数年。いつしか彼女たちはかけがえない大切な存在になっていた。歳を重ねるとお互いの環境は変わってゆくけれど、この友情はいつまでも変わらないと信じている。私の大切な友人達に今改めて……ありがとうございます。

国文科 昭和62年度卒 藁谷里実

國學院に行っても私は一生の友を得ました。とっても楽しかった2年間。今でもあの頃に戻りたいと思う時があります。

社会人になってからも、短大時代に先生方に教わった様々なことが自分を助けてくれています。今、学生でいる方達へ。思いっきり青春をenjoyして欲しいです。

国文科 昭和63年度卒 榎戸里也子

創立25周年、おめでとうございます。卒業して20年以上にもなりますが、いつまでも母校として、私の中ではあたたかな存在です。

同窓会役員の皆様も、たくさんの御苦労もおありかと存じますが、将来楽しかったと思える活動を今、存分になさってください。一会員として今後の会の発展を心よりお祈り申し上げます。

幼児教育科 平成元年度卒 佐藤たかえ

同窓会創立25周年おめでとうございます！

幼稚園や保育園で仕事を続けてこれたのも國學院を卒業し、資格を取ったからこそとっていても母校に訪れる機会さえなかった私……。それが十九年経って、縁あって國學院の仕事をする事になるなんて、想像もしていませんでしたが、今は楽しく國學院のお仕事をさせて頂いております！

幼児教育科 平成元年度卒 柴田恵理子

同窓会創立25周年おめでとうございます。

一昨年、札幌プリンスホテルにてありす会が盛大に開催され、久しぶりに恩師や旧友と再会し、とても楽しく嬉しく思いました。私の現在の職場では数名の後輩と出会い共に保育に携われる感動があります。これからも國學院で学んだことを縁として、たくさんの先輩や後輩とつながっていける関係を大切にできたらと思います。益々の発展を期待しています！

幼児教育科 平成元年度卒 中村理枝（旧・田岡）

「創立25周年」おめでとうございます。

18才の春、東京から初めて北海道へ行った日の事、今でもよく覚えています。何もかも初めての事が多く、毎日ワクワク、ドキドキしていました。（ジンギスカンもでした）

「せっかく北海道の短大に入学したからスキー部に入部しよう。」と思い友人達と入りました。1回もスキーをした事がない私が次期部長に任命され、戸惑った日々をなつかしく思います。翌年、北海道学生スキー連盟に加盟し、他大学と合宿など交流を深め、楽しい日々を過ごしました。今年40才になった私ですが、短大の頃の友人達と思い出は宝物のひとつです！

PN=ペンネーム

国文学科 平成4年度卒 **山田恭子**

同窓会創立25周年おめでとうございます。私はこの短大でかけがえのない恩師・友人と出会うことができました。私の人生にすごく影響を与えた二年間でした。

幼児教育科 平成5年度卒 **鎌田幸子**

25周年おめでとうございます。短大では、楽しい思い出がたくさんあります。サークルに活動にも参加し、札幌のヨサコイも踊りました。自転車で図書館へ行き、絵本の読み聞かせも経験したことが懐かしいです。一昨年の記念行事で学校の中に友達と入りました。久しぶりに友達と会い、楽しい時間を過ごしました。また滝川や札幌で集まる機会があれば、参加することができたらいいのにな～と感じました。

英語科 平成6年度卒 **P.N.ゆきんこ**

創立25周年おめでとうございます。前回のありす会は、参加できる全卒業生が集まった非常に楽しい式典でした。子供も出来たので、夫婦で卒業した母校に連れて行ける日を楽しみにしています。

社会人になってからは、國學院情報も耳に入り辛くなりますが、できるだけ企画には参加したく思っています。今後の皆様の活躍に期待しています。頑張ってください。

幼児教育科 平成6年度卒 **香田潤**

私儀、不治の難病を患う身となりました。しかし環境問題、交通問題、バリアフリー等に関する研究や講演活動を続けております。難病に冒されても前向きに生きていられるのは、國學院で過ごした時間があるからでしょう。短大、大学、大学院と複数の学校に学び、複数の論文も発表し、講演等も行ってきました。しかし難病と向き合う心を得たのは國學院での時間が最も大きいと思います。障害者や難病患者に対する在り方、学びの庭にいる時にはその重たさに気づかずにはいましたが、10数年の時を経た今では身をもって実感しております。國學院に通った期間をもっと大切にしたいと感じています。そして私が体験したこと、学んだこと、感じていること、若い人にも伝えたいと思っています。今このように感じるごとのできる心を与えて下さった教職員の皆様方には、深く感謝いたしますとともに敬意を表します。

国文科 平成8年度卒 **富山義賢**

遥かにピンネシリを嶺を仰ぎ見やら過した2年間は自身の来し方を振り返る時、今の自分の生き方の源流は滝川での学生時代であった事に気づかれます。

私の人生の中でこれからも幾度となく國學院短期大学の存在に勇気づけられる事でしょう。

ありす会創立25周年おめでとうございます。今後ますますの御発展を祈念申し上げます。

国文科 平成9年度卒 **月嶋愛美**

短大を卒業してから季節は幾度も巡り、あなたはどんな時を送っていますか？

学生の頃よりも大きな喜びや楽しみもあれば、つらい苦しみや悩みもある。昨日より今日。今日より明日。10年先、20年先……。今日よりも幸せな自分でいて下さい。未来の自分は過去を笑ってふりかえられる人になっていますか？

英語科 平成9年度卒 **武藤仁恭**

同窓会創立25周年おめでとうございます。時代は新しい即戦力の人材を求めています。企業としては、優秀な人材を発掘すべく努力しております。今後、短大から社会への優秀な人材を送り続けてくれる事を祈念します。

国文科 平成10年度卒 **海老名有子** (旧姓・六本木)

國學院短期大学同窓会創立25周年、誠におめでとうございます。

一昨年に開催された同窓会に出席させていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。卒業して早10年余り、旧友とも会う機会が減るなかでこのような同窓会を企画していただき、恩師、なつかしい旧友との交流を深められたこと、同窓会事務局のスタッフのおかげだと深く感謝いたします。

一般企業に就職し、結婚退職、主人と子供二人に囲まれ今は臨時職員として幸せに暮らしていますが、常日頃思うことは、学生時代にもっと真面目に勉強しておけばよかったということです。短大二年間はアルバイトや遊ぶことに夢中で本業の勉強をおろそかにしていた自分を後悔しています。現役学生のみなさん、勉強できる環境がととのっている今、とても幸せですよ。頑張って勉強に励んで下さい。最後に、また30年、40年と同窓会が開催されることを期待し、國學院短期大学の更なるご発展を根室よりお祈りしております。

国文科 平成10年度卒 **加藤里英**

25周年おめでとうございます。卒業してもう10年になりますが、あつという間に感じています。今でも、在学中に巡り合った友人は大切に私にとってはかけがえのない存在です。今、現在の私があるのも、この國學院短大のおかげです。たくさんの方と縁を結ぶ学校がいつまでも発展し続けてくださるよう祈っています。

国文科 平成10年度卒 **田宮司**

創立25年を心よりお祝い申し上げます。本気で「学ぶ」ことを考えると、國學院短大は素晴らしい環境にあります。在校生の皆さんにおかれては志高く学ぶ姿勢を持って下さい。これからのさらなる短大の発展を祈念いたします。

国文科 平成10年度卒 **山本雅博**

25周年おめでとうございます。学生の力を確実に伸ばす國學院短大。ますますのご発展を応援しております。

国文学科 平成12年度卒 **酒井智章**

同窓会創立25周年おめでとうございます。

私は短大の2年間で「生涯の友と師」に出逢い、そして自分の夢を掴むことが出来ました。また様々なところで國學院との縁があり、

その縁に支えられ助けられ今の自分があるということに感謝しております。

短大が常に発展していく限り、自らも日々精進し、國學院にとっての「良き師」「良き友」の存在となっていくと思います。「國學院大學北海道短期大学部」への校名変更と併せて、お祝い申し上げます。

英語コミュニケーション科 平成12年度卒 **五十嵐智子**

創立25周年おめでとうございます。

私は小さいころ、北海道にあこがれ仙台から北海道にある、國學院短期大学へ進学しました。今振り返ると、北海道での初めての一人暮らし、楽しかったスキー部のサークル、短大時代に得た多くの友達、富良野や美瑛、小樽、札幌、旭川などを訪れ、たくさんの良い思い出や貴重な体験をし、あっという間に、楽しく過ぎていました。

旅行などで北海道を訪れるたびに、いつも、短大時代のことを思い出します。國學院短期大学を卒業した今は、思うようにいかないこともあります。しかし、ここで学んだたくさんの経験は、自分の財産となり、糧となっていると思いますし、原点のような出発点のようにも感じています。この度、記念会報寄稿依頼を受けて戸惑いもしましたが、短大時代にタイムスリップをし、あの当時に描いていた夢や思いを、再び思い出す良い機会となりました。

最後に、國學院短期大学のご発展をお祈りし、ここから旅立つ後輩達にも良い活躍があることを願っております。

英語コミュニケーション科 平成12年度卒 **奥山沙織**

ありす会創立25周年おめでとうございます。昨年、開学25周年記念同窓会に出席しましたが、あんなに多くの同窓生がいろいろなところで活躍しているのを見て心強く思え、また刺激にもなりました。事務局の皆様ありがとうございました。ありす会の益々の発展と次の同窓会を期待しています。

幼児教育科 平成13年度卒 **初貝郁彦**

皆さん元気ですか？ 保育の道を歩んだ人また別な道に歩んだ人もいるのではないかと考えています。最近、不景気でとても厳しい現実ですが、ガンバッテ乗り切ってまたいつか同窓会かなんかで顔合わせしたいものですネ～

国文学科 平成15年度卒 **松木猛**

皆さん、こんにちは！

同窓会創立25周年おめでとうございます。私は現在、地元の神社の宮司として神明に奉仕していますが、滝川の雪と寒さの冬、若緑の春、短い夏、紅葉の秋などの情景が今でも鮮明に思い出されます。

52歳からの短大生活は人生の中で最も充実した時間を持ち、また楽しく過ごすことができた2年間でした。皆さんも短大での時間を大切にしてください。

幼児教育学科 平成15年度卒 **PNよびばる**

同窓会創立25周年おめでとうございます。

私は、國學院短大で、色々な人と出会い、学生時代の思い出の中で一番楽しい経験や仲間を作る事が出来ました。短大の友達と遊ぶ時は必ず、「学生のあの頃に戻りたいねえ」が、くちぐせです（笑）また近いうちにTちゃんUちゃん遊ぼうネ？

国文学科 平成16年度卒 **佐藤結子**

お久しぶりです。お元気ですか？ 私は東京に戻り、働いております。短大での日々で得たものは多く、時々思い出することもありますが、変わっていくものはあっても、良いものが残り伝わっていくと良いと思います。それでは、また機会があったら。皆様のご健康を願って。

国文科 平成16年度卒 **雲龍奈津美**

山寺師匠！ いつまでも奥さんと幸せでいて下さい？二人の愛は永遠に？安田先生ともラヴラヴで？

国文学科 平成16年度卒 **成田枝里香**

短大卒業から、海上自衛隊に勤めています。大学とはかけ離れている世界ですが、短大で学んだ言葉の大切さや面白さなどは、上官に対しても、部下に対しても日々生かせることができています。國學院短大時代がとても懐かしく、また人生の宝であると思っています。それを支えに、日々の訓練や勤務に励んでいきます。

国文学科 平成18年度卒 **佐藤万里往**

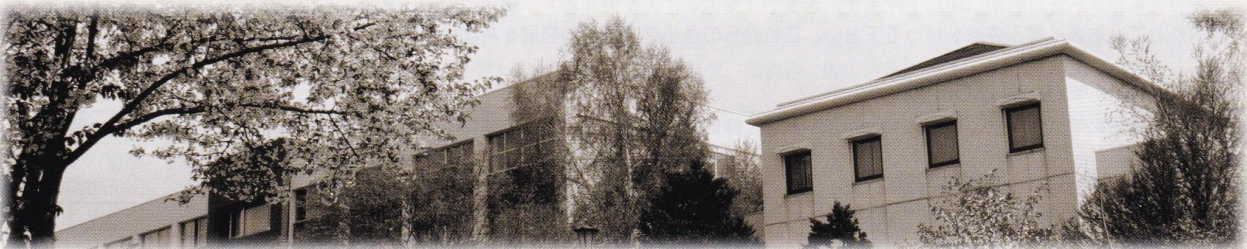
皆様、こんにちは。國學院短期大学卒業生の佐藤万里往です。

私が卒業したのは今から約3年前のことですが、楽しかった日々がつい昨日のこのように思えてきます。それらのことについて思い返すことによって、國學院短期大学がいかに私の中で大きなものだったかを再確認することができました。

在校生の皆様。どうか、今という時間を大切に。新しいことに挑戦し、一生の思い出にできる今を。

国文学科 平成18年度卒 **藤森智子**

短大生のみなさん。楽しいこと、苦しいこと、色々あると思いますが頑張ってください。



短期大学部からのお知らせ

公開講座

本学では國學院大學の建学の精神、本学の特色と教育内容を北海道民に広く理解していただくことを目的に、平成17年より札幌をはじめ函館、釧路、帯広で公開講座を実施しています。

公開講座は、國學院大學と本学が共催する「公開古典講座」、國學院大學北海道短期大学部主催の「セミナー CATY」、國學院大學並びに本学と道新との提携「ぶんぶん教養講座」（ぶんぶんクラブ会員対象）があります。

いずれも國學院大學並びに本学の教員が、それぞれの専門をテーマに講演いたします。昨年度は國學院大學古岡・青木先生、佐藤・矢部先生、本学国文学科播摩・安田・秋元・山寺・月岡・小野先生、総合教養学科太田・舩井先生、幼児・児童教育学科野崎先生が講演をしました。

「ぶんぶん教養講座」は道新ぶんぶんクラブ（Tel 011-210-5261）へ、「公開古典講座」「セミナー CATY」は本学（Tel 0125-23-4111）までお問い合わせ下さい。

子育てサロン「ありす」

子育て中のお母さん同士の情報交換、ママさん友だちを作る場です。近くにお住まいの方はお子さん（0歳～4歳未満）を連れて気軽に遊びに来て下さい。

平成21年4月～平成22年3月
毎月第3水曜日 10:00～12:00
先着30名
参加費1家庭100円（保険料相当分）

※詳細はコミュニティカレッジセンターまでお問い合わせ下さい。（Tel 0125-23-4111）

國學院大學北海道短期大学部 「ありす祭」を開催！

6月27日（土）28日（日）

学びへの誘い

「國學院大學所蔵古典籍展」

國學院大學が所有する学術財産の内から、古典籍（今年のテーマは万葉集）を中心に展示会を開催します。

【札幌会場】紀伊國屋書店札幌本店2階ギャラリー

【期 間】6月13日（土）～6月21日（日）
平 日／11:00～19:00
土・日／10:00～18:00
いずれも入場無料

「公開古典講座」全3講座

【会 場】小樽商科大学札幌サテライト
（札幌市中央区北5西5-7 Sapporo55ビル3F）

【日 時】平成21年6月21日（日）

【受講料】各講座1,000円 先着60名

サマーフェスタ2009

古典籍展「日本のまなざし」

【滝川会場】6月22日（月）～6月28日（日）
6月22日（月）14:00～16:30
6月23日～28日 10:00～16:30
いずれも入場無料

「狂言公演」

大蔵流山本会 山本東次郎師（重要無形文化財（総合）指定）一門による古典芸能鑑賞会『狂言』公演を行います。

【会 場】國學院大學北海道短期大学部 総合体育館

【日 時】6月26日（金）17時～（予定）



オープンキャンパス

高校生を対象として実施します。ご子方並びに今後進学を控えている方には是非ご紹介ください。

5月30日（土）、6月27日（土）、
7月19日（日）、8月9日（日）、
9月27日（日）

※参加を希望される場合は、事前にお申し込み下さい。

交通費の補助

オープンキャンパスに参加される高校生を対象に、交通費の一部を補助致します。
詳しくは入試広報室までお問い合わせください。

平成20年度國學院短期大学ありす会決算書 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

収入の部

(単位: 円)

科 目	予算①	決算②	増減②-①	備 考
1. 同窓会費収入	3,465,000	3,495,000	30,000	
2. 受取利息収入	50,000	91,976	41,976	
3. 雑収入	0	61,000	61,000	
4. 前年度繰越金収入	36,463,972	36,463,972	0	
合 計	39,978,972	40,111,948	132,976	

支出の部

(単位: 円)

科 目	予算①	決算②	増減②-①	備 考
1. 事務費支出	1,700,000	694,169	△ 1,005,831	
イ. 用品・備品費支出	50,000	18,843	△ 31,157	
ロ. 印刷・製本費支出	600,000	308,280	△ 291,720	同窓会報印刷代など
ハ. 通信・運搬費支出	1,000,000	367,046	△ 632,954	同窓会報郵便料など
ニ. その他事務費支出	50,000	0	△ 50,000	
2. 旅費・交通費支出	800,000	519,540	△ 280,460	幹事会(年3回)旅費など
3. 会費支出	1,000,000	364,065	△ 635,935	総会・懇親会経費補助など
4. 雑支出	250,000	18,875	△ 231,125	
5. 補助費支出	800,000	324,525	△ 475,475	
6. 援助金支出	300,000	0	△ 300,000	
7. 協賛金支出	100,000	100,000	0	卒業祝賀会協賛費
8. 奨学金支出	300,000	0	△ 300,000	
9. 教育振興基金繰出金	600,000	600,000	0	
10. 事業振興基金繰出金	600,000	600,000	0	
11. 予備費	300,000	0	△ 300,000	
12. 次年度繰越金	33,228,972	36,890,774	3,661,802	
合 計	39,978,972	40,111,948	132,976	

【収支差額】	【預金状況】
収入総額 ¥40,111,948	普通預金 ¥25,881,127 ※普通預金残高
支出総額 ¥3,221,174	定期預金 ¥11,009,647 ※定期預金の残高(基金積立分を除く)
差引残額 ¥36,890,774	合 計 ¥36,890,774

同窓会教育振興基金・同窓会事業振興基金明細

同窓会教育振興基金(定期預金)	同窓会事業振興基金(定期預金)
繰越金 ¥6,678,398	繰越金 ¥11,347,174
当期受入額 ¥600,000	当期受入額 ¥600,000
当期受取利息 ¥4,887	当期受取利息 ¥17,660
¥7,283,285	¥11,964,834

平成21年度國學院短期大学ありす会予算書 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

収入の部

(単位: 円)

科 目	予算①	前年度予算②	増減①-②	備 考
1. 同窓会費収入	3,000,000	3,465,000	△ 465,000	
2. 受取利息収入	50,000	50,000	0	
3. 雑収入	10,000	0	10,000	
4. 前年度繰越金収入	36,890,774	36,463,972	426,802	
合 計	39,950,774	39,978,972	△ 28,198	

支出の部

(単位: 円)

科 目	予算①	前年度予算②	増減①-②	備 考
1. 事務費支出	1,900,000	1,700,000	200,000	
イ. 用品・備品費支出	50,000	50,000	0	
ロ. 印刷・製本費支出	800,000	600,000	200,000	同窓会報印刷費 他
ハ. 通信・運搬費支出	1,000,000	1,000,000	0	同窓会報郵便料 他
ニ. その他事務費支出	50,000	50,000	0	
2. 旅費・交通費支出	800,000	800,000	0	
3. 会費支出	1,000,000	1,000,000	0	
4. 雑支出	250,000	250,000	0	花束代他
5. 補助費支出	800,000	800,000	0	卒業記念品
6. 援助金支出	300,000	300,000	0	
7. 協賛金支出	4,100,000	100,000	4,000,000	校名変更協力金(100万円) 25周年記念イベント協賛金(300万円)
8. 奨学金支出	300,000	300,000	0	
9. 教育振興基金繰出金	600,000	600,000	0	
10. 事業振興基金繰出金	600,000	600,000	0	
11. 予備費	300,000	300,000	0	
12. 次年度繰越金	29,000,774	33,228,972	△ 4,228,198	
合 計	39,950,774	39,978,972	△ 28,198	



▲國學院短期大学開学25周年記念同窓会

INFORMATION

氏名・住所等の変更の際は、 同窓会にもご連絡ください

ありす会ではできるだけ多くの卒業生の皆さんとのつながりを大切にしたいと考えております。住所等が変更された場合は、必ず同窓会にもご一報ください。住所等の変更の連絡は、TEL 0125-23-4111 FAX 0125-23-5590 メール arisukai@kokugakuin.jp で受け付けています。住所等の変更のご連絡をいただけない方は、同窓会報や同窓会の開催案内等をお届けすることができません。お近くで、会報の届いていない卒業生をご存知でしたら、お手数ですが同窓会宛にご連絡をいただきますようお願いいたします。

ご連絡の際は、氏名・旧姓・学科・卒業年度・郵便番号・現住所・電話番号・メールアドレス(任意)をお知らせください。

卒業証明書の申し込み

卒業後に就職等の都合で諸証明書が必要となり、短大窓口に来ることができない場合は、各種証明書を郵送で申し込むことが出来ます。

國學院大學北海道短期大学部のホームページから「卒業生の方へ」→「証明書の申し込み」に進みます。「証明書申込書」をクリックし、表示された用紙をプリントアウトして自筆にて項目を記入の上、証明書料金(申込書に記入されています)と返信用封筒(切手添付/長3封筒使用)を國學院大學北海道短期大学部学生支援センターまでお送りください。なお、詳しくはお問い合わせください。ホームページアドレス

<http://www.kokugakuin-jc.ac.jp/alumni/shomeisho.html>

祝電プレゼント

ご結婚がきまった場合は、短大ありす会事務局までご連絡ください。ささやかですが、祝電をプレゼントします。挙式日程、会場等とあわせて姓名・住所変更等のご連絡もお願いします。

同窓会「ありす会」総会を開催！

國學院大學北海道短期大学部

来る、6月28日、ありす会（同窓会）総会を、國學院大學北海道短期大学部を会場に開催します。

当日は、学園祭「ありす祭」にあわせて、同窓会 25 周年記念行事『お笑い LIVE ありす SHOW』が同時開催されます。出演は、「ペナルティー」「COWCOW」「ものいい」「もう中学生」のほか、札幌吉本からもお笑い芸人が出演します。最近注目の若手芸人から、ベテラン芸人まで、充実のラインナップです。

総会および同窓会 25 周年記念行事『お笑い LIVE ありす SHOW』への参加にあわせて、ありす祭もご覧頂き、懐かしの母校や旧友、恩師との再会を楽しんでいただけると幸いです。多数のご参加をお待ちしています。

なお、総会議案につきましては、短大 HP に掲載いたします。

- 総会日時 平成 21 年 6 月 28 日(日)
11 時～(30 分程度を予定)
- 総会会場 國學院大學北海道短期大学部
- 申込方法 同封の返信はがきでお申し込みください。
- 申込期限 平成 21 年 5 月 22 日(金) まで(必着)

『お笑い LIVE ありす SHOW』の同窓会会員向け販売は「午後の部」のみとなります。観覧の申込みをされた方には、後日引換券を送付し、当日代金と引き替えて、入場券をお渡しします。申込期限後（5月22日）の購入及び「午前の部」につきましては、一般販売をご利用いただくことになりますので、ご注意ください。

なお、『お笑い LIVE ありす SHOW』の収益金は、滝川市・丸加高原で建設が進められています難病と闘う子どもたちのためのキャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」に寄付させていただきます。

★そらぶちキッズキャンプとは？



現在、日本では約 20 万人の子どもたちが、小児がんや心臓病等の病気（難病）とたたかっています。虫取り、花摘み、魚釣り、そして木登り。子どもなら誰もがやってみたいと思っているでしょう。でも、どんなに思い続けてもそれができない子どもたちがいます。また、みどりと風、ぬけるような青空と自然のなかで、子どもたちの笑顔と歓声に包まれた思い出に残る時を過ごしたいと願っている家族がいます。

これらの子どもたちは、自然の中に“出かけることができない”のではなく、“出かけることのできる施設”がないために、ベッドでの生活を余儀なくされているのです。

国内には医療施設の整った難病児を受け入れることができる自然体験施設はなく、病気の子どもたちは自然体験をする機会の無いまま闘病生活を送っています。

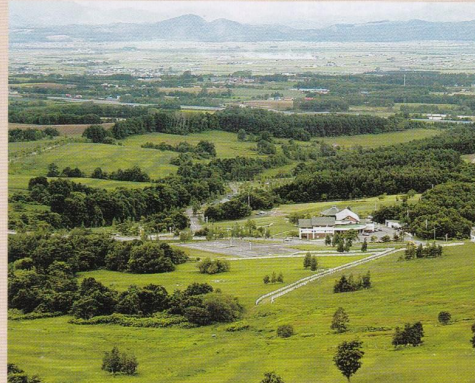
こうした状況のなか、想いを同じくする医療や自然療法、難病児支援、造園などの専門家が集まり、病気とたたかう子どもたちに特別に配慮されたキャンプ場を整備しようという構想が持ち上がり、平成 16 年 3 月「病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプ（そらぶちキッズキャンプ）を創る会」が設立されました。

自然に恵まれ、交通アクセスも良い「北海道滝川市」がその候補地として選ばれました。

かつて滝川市のある場所はアイヌ語で「そらぶち（滝のある川という意）」と呼ばれていました。この「そらぶち」に病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプ場、「そらぶちキッズキャンプ」を実現させたいと願っています。

この計画は米国の俳優ポール・ニューマン氏が私財を投じて設立した「ホール・イン・ザ・ウォール・ギャング・キャンプ」をモデルとしています。類似したキャンプは米国のほかにもフランス・アイルランド・イタリアなど世界 8 カ国、12 箇所設置されており、そらぶちキッズキャンプが実現すると日本初はもちろんのことアジア初の施設となります。

そらぶちキッズキャンプは、病気の子どもやその家族が、病気のことを忘れ、笑顔で楽しいひとときを過ごし、「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「希望」を得ることができる夢のキャンプ場なのです。



國學院大學北海道短期大学部

第28回 ありす祭
お笑いLIVE

ありす SHOW

同窓会創立25周年記念事業



6.28日

■午前の部:開場10:30 開演11:00

■午後の部:開場13:30 開演14:00

前売り **¥1,500(全席自由)**

※チケットは前売りのみの販売です。当日券はございません。
※チケット購入代金は全額「そらぶちキッズキャンプ」に寄付されます。
※都合により出演者変更になる場合があります。
※公演中の撮影・録音等は禁止させていただきます。

●ところ／國學院大學北海道短期大学部 体育館特設ステージ
〒073-0014 北海道滝川市文京町3丁目1-1 ☎0125-23-4111

●チケット販売窓口
・TSUTAYA滝川店・川口時計店・北海楽器滝川支店・たきかわ音館・
・滝川市役所売店・滝川市立病院売店・滝川ふれあいの里
・いわた書店(砂川市)・砂川市地域交流センターゆう・新十津川町総合健康福祉センターゆめりあ・奈井江町文化ホール

●主催／國學院大學北海道短期大学部
同窓会創立25周年記念事業実行委員会

●協賛／國學院大學北海道短期大学部

●後援／滝川市・滝川市教育委員会
一般財団法人そらぶちキッズキャンプ
株式会社エフエムなかそらち(FMG' Sky)

●お問い合わせ／國學院大學北海道短期大学部同窓会事務局 ☎0125-23-4111

●協力／Smile²⁰ テレビ北海道